

第3回国連防災世界会議開催に向けた主な準備状況【国連・日本政府の動き】

第3回国連防災世界会議に係る国内準備会合（第3回、平成26年5月30日）以降の主な準備状況については以下の通り。

- 6月22～26日：アジア防災閣僚級会議（アジア地域プラットフォーム）（バンコク）
兵庫行動枠組について、アジア各国での実施状況や今後の推進方策について議論し、会議の成果文書としてバンコク宣言が採択された。
- 6月～9月 アジア地域プラットフォームに加え、欧州地域プラットフォームをはじめとする地域プラットフォームに参加し、各国へ閣僚級の参加を呼びかけた。
- 7月10～11日：国連経済社会理事会閣僚級会合 防災サイドイベント（ニューヨーク）
国際開発関係の閣僚級が参加する機会を利用し、日本政府主催のサイドイベントを開催し、開発における防災の主流化をテーマとしたパネルディスカッションを実施するとともに、仙台市・東北大災害研究所・陸前高田市や、JICAによる展示も行った。
- 7月14～15日：第1回政府間準備会合（ジュネーブ）
各地域で行われた地域防災プラットフォームの協議結果の共有とともに、各国のステートメントにおいて、ポストHFAに関する考えが示された。また、日本政府から世界会議の仙台・東北開催の準備状況を説明し、議長から今後の成果文書作成プロセス、スケジュールの確認・共有がなされた。
- 8月8日：ポスト2015年防災枠組プリ・ゼロ・ドラフトの公開
幹事国会合（ビューロー）の共同議長が作成した、ポスト2015年防災枠組のたたき台（プリ・ゼロ・ドラフト）が世界会議ホームページ上で公開された。
- 9月5日～10月13日：ポスト兵庫行動枠組 非公式コンサルティング会合（ジュネーブ）
プリ・ゼロ・ドラフトについて、各国やステークホルダーが意見表明を行った。
我が国からは、「ポストHFA策定に向けた日本提案の骨子」を踏まえ、防災に関するステークホルダーをとりまとめる中央政府の役割、事前の防災投資、よりよい復興等の重要性等を主張。
- 9月24～25日：国連準備ミッション現地視察
国連ISDRや国連のセキュリティー部門、IT部門の担当者が仙台市内の本体会議場や関連事業の主要会場等を視察。政府、宮城県警、仙台市の職員が同行し、意見交換を実施した。
- 10月20日：ポスト2015年防災枠組ゼロ・ドラフトの公開
非公式コンサルティング会合での議論を踏まえ、ビューロー共同議長がゼロ・ドラフトを作成し、世界会議ホームページ上に公開された。第2回政府間準備会合で議論される予定。

以上

第3回国連防災世界会議について

国連防災世界会議とは

- 国連防災世界会議はグローバルな防災戦略を策定する国連主催の会議であり、第1回世界会議（1994年、横浜市）、第2回世界会議（2005年、兵庫県）ともに日本で開催。
- 第2回国連防災世界会議では、2005年から2015年までの国際的な防災の取組指針である**兵庫行動枠組 (Hyogo Framework for Action: HFA)** を策定。

第3回国連防災世界会議の開催

第3回国連防災世界会議は、2015年3月14日（土）～18日（水）に仙台市で開催予定。

- 各国閣僚、国際機関代表、認証NGO等約5千人、全体で約4万人以上が参加する見込み。
- ポスト兵庫行動枠組の策定が行われる予定
- 内閣府防災担当大臣が議長を務める予定

<開催の意義>

- ① 兵庫行動枠組の後継枠組（ポスト兵庫行動枠組）の策定
- ② 幾多の災害から得た教訓、防災技術・ノウハウ等の我が国の知見の発信
- ③ 東日本大震災からの復興の発信および被災地の振興

防災の主流化の更なる推進と、ポスト2015開発アジェンダにおける防災の明確な位置付けを目指す。

準備プロセス

国内

【国内準備会合】

国連に提案すべき事項、この機会に発信すべき我が国の知見等について、専門的な見地から検討し、日本政府事務局に対して助言を行う。

【仙台開催実行委員会】

地元関係機関や政府が連携して、本体会議の開催支援、関連事業・歓迎事業等の企画・調整、仙台・東北地域の魅力発信等を行う。

国連

【ビューロー】

国連加盟国の地域代表11か国（5地域×2代表（アフリカ：エジプト、南スーダン、アジア：タイ、バングラディシュ、東欧：ロシア、チェコ、ラテンアメリカ：エクアドル、ジャマイカ、欧州：スイス、フィンランド）+ホスト国日本）により構成される政府間準備会合の幹事会。（※下線は共同議長国）

【政府間準備会合】

世界会議プログラムの作成、承認、ポスト兵庫行動枠組の草稿の作成等を行う会合。平成26年7月及び11月にジュネーブで開催。

【地域プラットフォーム】

世界各地域内（アジア、欧州、米州、アフリカ等）における兵庫行動枠組の取組を総括し、ポスト兵庫行動枠組に向けた議論を行う、各地域の準備会合。

第3回国連防災世界会議の準備状況

【日本の準備状況】

○国連防災世界会議に係る国内準備会合における検討(2/18～)

- ①ポスト兵庫行動枠組の策定に向けた我が国の提案内容
- ②東日本大震災からの教訓、防災技術・ノウハウ等の我が国の知見の発信内容
- ③東日本大震災からの復興の発信内容、被災地の復興の発信内容

○仙台開催実行委員会の設置(4/17～)

- ・ホームページ(<http://www.bosai-sendai.jp/>)

○パブリック・フォーラム(シンポジウム・展示等)の募集開始(7/11～9/16)

【国連の準備状況と我が国の参画】

○国連加盟国の地域代表によるビューローが設置され、世界会議の構成等について検討(3/19～)

- ビューロー構成国(5地域×2代表(アフリカ:エジプト、南スーダン、アジア:タイ、バングラディッシュ、東欧:ロシア、チェコ、ラテンアメリカ:エクアドル、ジャマイカ、欧州:スイス、フィンランド)+ホスト国日本 計11か国)

○地域プラットフォームへの参画

- ・5/27～29 米州地域プラットフォーム(エクアドル) ※亀岡内閣府大臣政務官出席
- ・6/2～4 太平洋州地域プラットフォーム(フィジー) ※菅沼第3回国連防災世界会議大使出席
- ・6/24～26 アジア地域プラットフォーム(タイ) ※菅沼第3回国連防災世界会議大使出席
- ・7/8 欧州地域プラットフォーム(イタリア) ※西村内閣府副大臣出席
- ・9/14～16 アラブ地域プラットフォーム(エジプト) ※城内外務省副大臣出席

○第1回政府間準備会合(7/14～15(ジュネーブ))への参画(※第2回は11月に予定)

○ポストHFA非公式協議への参加(9月～10月)



UN World Conference on
Disaster Risk Reduction
2015 Sendai Japan

第3回国連防災世界会議公式ロゴ

本ロゴマークは、災害に対して強靱(レジリエント)な社会に向けて、人々が共に手を携えて行動を起こすイメージを表しています。また、5つの色は、「兵庫行動枠組(HFA)」の5つの優先行動を表しています。



UN World Conference on
Disaster Risk Reduction
2015 Sendai Japan

第3回国連防災世界会議ⁱ

2015年3月14日-18日, 於: 仙台市ⁱⁱ

	3月14日(土)		3月15日(日)		3月16日(月)		3月17日(火)		3月18日(水)					
	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM					
本体会議	開会式	全体会合 (会議運営方式等の決定)	首脳級 対話	全体会合 ステートメント(意見表明)							ポスト兵庫行動枠組, 政治宣言, コミットメント の採択	閉会式		
				閣僚級ラウンドテーブル		主要ステイクホルダーとの対話								
				ワーキングセッション										
関連事業	パブリックフォーラム(シンポジウム, フォーラム, 展示等) (開催場所: 東北大学川内萩ホール, 仙台市民会館, 宮城県民会館, せんだいメディアテーク, 夢メッセみやぎ等)													
				日本国 政府主 催レセプ ション			仙台市主 催レセプシ ョン			リスク賞 授賞式			笹川賞 授賞式	
			被災地視察(スタディツアー)									エクスカージョン		

